

05. 9. 25

No.135

編集 樋口 みな子

〒069-0831

江別市野幌若葉町40-7

TEL&FAX

011-382-9020

E-mail

minginga@agate.plala.

or.jp

郵便振替

「銀河通信」02740-7-

56535

(6号分1,000円)

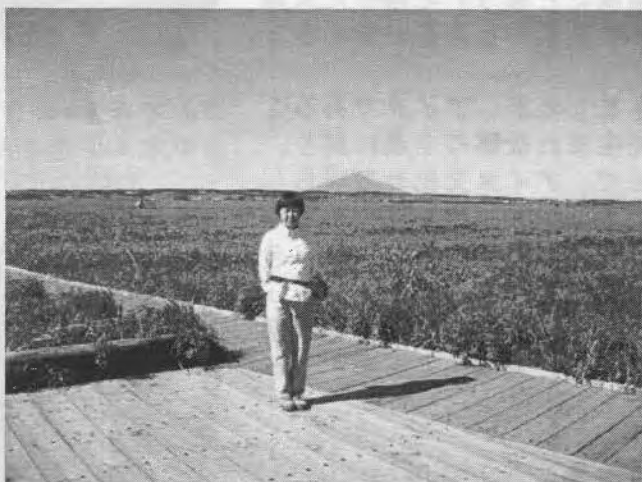


一山百楽

北海道も、ついこの間まで残暑が厳しい日々でした。空が高く、流れる雲がようやく秋らしくなりました。お元気でお過ごしですか？私は、毎週のように山に登っていました。読みたい本、紹介したい本もたくさんありましたが、書く時間がたりませんでした。

文化の秋、たまにはじっくり絵画展や写真展に行ってみたいと思い、山と自然を愛した写真家、田淵行男さんの写真展を観てきました。今年、生誕100年になります。山岳と植物の写真家である梅沢俊さんから案内をいただきました。田淵さんは高山蝶をはじめとする昆虫生態や雪形の研究などで偉大な業績を残し、日本のファールと呼ばれたことも初めて知りました。素晴らしい細密画から、その観察力に圧倒されました。科学者の目と詩人の心をもった写真家と紹介されていました。「暮れゆく槍一常念乗越より」や「五龍残月」「夕映えの槍」「大キレットに沈む月」などが印象に残りました。詩情があふれ、山がこれほど表情豊かなものかと感動しました。田淵さんは安曇野に移り住み北アルプス・常念岳に206回も登ったとか。その一回一回に何か必ず新しい観照が生まれたと回想しています。「一山百楽」という言葉には、常念岳によせる思いが込められています。

私も山に対する姿勢を教えてくださいました。自分だけの一名山をみつけないかと思いました。是非足を運んでください。札幌ファクトリー内 札幌市写真ライブラリーで10月10日まで開催中です。



サロベツ原野から見る利尻山 (9.25)

三峰山の登山道から富良野岳を望む (9.11)



シマフクロウのいる風景

銀のしずく記念館設置に向けて・・・知里幸恵フォーラム

今年で6回目の知里幸恵フォーラムが登別で9月18日に開かれ200人が参加しました。アイヌ神謡集第1話と第7話に登場するシマフクロウにちなんで、講演はシマフクロウの研究、保護、増殖に取り組んでいる山本純郎さんのお話から始まりました。

山本さんは京都出身ですがシマフクロウに魅せられて1982年から根室に移り住み研究を続けています。国後島やロシアの風景がかつての北海道を彷彿とさせると語り、100年前の大自然がどんなに素晴らしかったのか思いをはせながら聞きました。シマフクロウは800メートルより下に生息するが、森がなくなって、減少してしまったこと、根釧原野でシマフクロウを観察しながら保護活動をしているが、多くの写真家がきて雛が育たなかったこともあると語りました。貴重なシマフクロウのスライドを使って話されましたが、のびのびと暮らせるように見守りたいですね。室蘭市立白鳥台小学校の児童30人による「銀のしずく」の美しい合唱は心洗われました。



小野有五さんの司会で「小さな記念館の魅力について」のパネルディスカッションが地元の郷土研究家の宮武紳一さん、アイヌ神謡集のカムイユカラを歌ったCDで吉川英治文化賞を受賞した中本ムツ子さん、伊達市噴火湾文化研究所所長であり、縄文文化の研究者である大島直行さん、「銀のしずく」の歌唱指導をしている小学校教諭の津田邦子さんが、それぞれの

立場で知里幸恵の「銀のしずく」記念館に寄せる思いを語りました。特に印象に残ったのは「北海道の縄文文化はアイヌ文化の源流だと思う」と語った大島さん。実証するのはなかなか困難だけど、アイヌの自然観や世界観が伝わると熱く語りました。

中本ムツ子さんについては私も取材でお話を聞きましたが、アイヌであることがかつては恥ずかしくて仕方なかった。50歳で生まれ故郷の千歳に戻り、アイヌのおばあちゃんたちのお話を聞くようになって、アイヌ文化の素晴らしさを見直したと語りました。津田さんは、子どもたちは、アイヌ民族の人から直接、差別や偏見に苦しめられた事実を知ることによって理解が深まると話し、小さな記念館では展示だけではなく、言葉でも伝えて欲しいと語りました。

私は、アイヌ文化を学ぶ講座でたくさんの素敵なアイヌ民族の方たちのお話を聴く機会がありましたが、もっとたくさんの人にアイヌ文化や世界観を知ってもらいたいと思います。



カムイユカラをうたう中本ムツ子さん



記念館への募金にご協力ください。2006年着工予定です。(みな子)



横山むつみさん

横山むつみさんは、知里森舎の代表として挨拶。「登別出身の知里幸恵をより多くの人々に知らせ、未来に伝えたい」と銀の滴記念館設置に募金の協力を訴えました。

わたしの山日記

本格的な沢歩き

ニセイチャロマップ山・石の沢 7月30日(土)、31日(日)

7月30日、札幌や、旭川、帯広などの日本山岳会会員、会友など22名が白滝キャンプ場に集まり、まずは安着祝いのビールで乾杯し、テント泊。分水嶺踏査以来再会した会員もいて、話が弾みましたが9時に就寝。

翌日6時起床。沢装備を整え7時10分にテント場を出発。

7時30分、上湧別川支流の林道を進んだ後、石の沢から入渓してニセイチャロマップ岳を目指して沢登りしました。

私は沢渡渉初心者のため、発寒川で基本を学んでからの参加でした。沢の脇にはダイヤモンドソウが可憐に咲いていて、私たちを励ましてくれました。

最初は快適に進みましたが、昨年の台風による倒木で川は荒れていたり、溪谷が深くなるにつれて、足場の悪い岩場になり、お互いに助け合って進みました。リーダーとサブリーダーとの連携がよく、コースは迷わずに進みました。

次々に現れる滝や岩壁のへつり、緊張感にあふれて楽しいですね。足が滑って、滝つぼに落ちた時は緊張しました。

今回、頂上には立てませんでした。沢登りの醍醐味を少しばかり味わうことができ、満足しました。



高山植物盗掘防止パトロール登山

縦走・赤岳～黒岳 8月14日(日)

8月14日、友人の鶴岡節子さん、帰省中の鶴岡さんの息子さんとの3人で、黒岳ロープウェー前に車を置き、7時34分のバスで銀泉台まで行き、赤岳～白雲岳～北海岳～黒岳縦走してきました。かつてサッカー少年のO君のパワーがすごかったです。

写真を撮りながらでしたが、赤岳頂上に2時間15分で着いてしまいました。

登り始めからナキウサギの声がして姿が見れるかもと期待しましたが姿は現してくれませんでした。

チングルマが咲いているのと枯れているのと半々ぐらい。枯れても綿毛が可愛いですね。エゾノレイジンソウという美しい名前のお花も初めて知りました。第二花園の雪渓が暑さを和らげてくれました。

次々迎えてくれる花たちが素晴らしかったです。大雪の花の量、種類の多さに感激でした。アオノツガザクラ、エゾノツガザクラのグラデーション、ジムカデも愛らしい。エゾコザクラのピンクが鮮やか。私の好きなミヤマリンドウも一面に咲いていて嬉しかったです。

駒草平ではコマクサもたくさん咲いていました。駒草平を少し過ぎたところで、清楚なクモイリンドウがちょうどいいつぼみで迎えてくれました。

途中の川のせせらぎが気持ちよく、手を入れたくなります。まだエゾノリュウキンカが咲いてました。コケモモの実がなっていたりと春と秋が同居してました。

黒岳7合目までランチも含めて7時間20分でした。

このコースお花の素晴らしさと雪渓も楽しめ、大雪の雄大さを満喫でき、お勧めです。

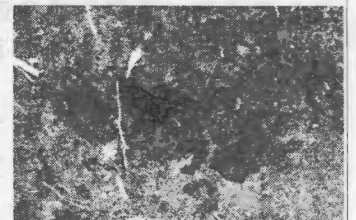
このパトロールで盗掘の跡は発見できませんでしたが、上の写真のようなストックによる掘り起こしや植物の中に突き刺した跡が多くあり、キャップを付けるようにPRする必要があります。



クモイリンドウ



ミヤマリンドウの群落



ストックでの掘り起こしの跡

日本山岳会中央分水嶺踏査

フィナーレ登山、無事に終了

8月20日(土)、21日(日)

8月20日美瑛町白金温泉「白樺荘」に札幌や、旭川、函館、福島町から、車に分乗しあって29人の会員、会友が集いました。首都圏から前会長である芳賀孝郎、淳子ご夫妻、理事の藤本慶光さん、坂本正智さん、森武昭さん、古市進さんの参加もあり、29人と大集団になりました。

交流会では、北海道の分水嶺の取り組みは、距離が長く全国からも注目されているとの発言が首都圏の会員からありました。また支部長がJACの会員番号と名前が入ったTシャツを全員に手渡し、皆はそのTシャツを着て交流会をもちあげました。ひとりひとりが自己紹介。分水嶺踏査の苦労や、失敗談で話しに花が咲きました。

会員が作った豚汁、天ぷらがおいしく大好評でした。あっという間に夜は更けて翌日に備えて早めに就寝。

21日4時に起床。素早く食事を済ませ、車に便乗しあって登山口を5時50分に出発しました。3班に分かれての山行です。かなりのアップダウンや、小雨の中での登山でしたが、天然庭園を過ぎたころ、トムラウシ〜オプタテシケ縦走隊との交信に成功。オプタテシケを8時に出発したとの連絡に互いに近づいていることに安堵しました。私たちは美瑛富士避難小屋に9時半の到着。

まもなく石垣山に立つ人の姿が見えました。ヤッホーと全員で手を振る。私たちは縦走隊の迎えに歩き出しました。11人の姿がだんだんに大きくなって、ついにドッキング。「ご苦労さまでした」お互いに抱き合い、握手。感動の瞬間でした。

今回も雨に苦しみながらの踏査。それぞれの胸に去来した思いは長い長い分水嶺を、雨にも負けず、吹雪にも負けず、一步一步踏みしめて繋いだという感動だったのではないのでしょうか。

避難小屋で、冷たいビールで乾杯。支部長などの挨拶。実行委員からの報告と40人で祝ったドラマティックなフィナーレ登山でした。

小雨降る中を下山。登山口では40人分のソーメンが迎えてくれました。美味しかったです。



岸壁をよじ登って 晴天の定山溪天狗岳に 8月28日(日)

8月28日、素晴らしい晴天になり、友人の節子さんとと彼女の夫さんと3人で、定山溪天狗岳に登りました。私は札幌近郊に住んでいながら初めて登る山でした。

9時半に白井二股に駐車して、登山口まで30分歩き、熊ノ沢コースを辿りました。岩あり、沢あり、小さな渡渉や、高巻を繰り返す、変化に富んで厳しいけれど面白かったです。

花は終わっていましたが、ヤナギランのピンクが可愛かったです。

最大の難所が、どろどろに濡れた岩のルンゼ。習ったばかりのロープワークを思い出しながら、三点確保で、登れたのが嬉しかったです。私の友人も私と同レベルなのですが4人のグループに、「まず、足場を確保して！」などと教えるのですから私はひやひや。足場が悪く、雨なら登れなかったと思います。

頂上の眺めは最高！ 余市岳、神威岳、百松沢、手稲山、奥手稲など札幌の山々を望むことができました。80代の男性がかくしゃくとして登っていたのが印象的でした。

サラシナショウマがたくさん咲いていて、一足早い秋を感じました。登山口から頂上までは2時間40分でした。



秘境 知床の沢を遡行

イワウベツ川～盤の川～サシルイ岳・三峰山の科尔～羅臼平～木下小屋

9月2日(金)～4日(日)

9月2日に知床自然センターキャンプ場に到着。日本山岳会の支部山行です。

3日、羅臼岳登山口駐車場に車を置き、メンバー9人で露天風呂の横を通りイワウベツ川から入溪。5時55分でした。知床は7月に世界自然遺産に指定され、観光客がどっと押し寄せていると聞きましたが、沢はとても静か。

水量は少なく苔むした岩を快適に進みました。次々に現れる沢が素晴らしく、仲間から感嘆の声が上がる。私は、ニセイチャロマップを8月末に沢体験したばかり。3～40mの樋状の滝が美しい。15mのハングの滝は高巻きしましたが、鹿道があり、つかまる木もありあまり苦勞せず助かりました。川幅いっぱい樋状の岩盤が続き、自然の造形美に疲れも吹き飛びました。盤の川へ乗っ越したところで、山仲間のがんさん(岩村さん)一行(3人パーティ)に出会いました。メーリングリストで知床の沢に入ると書いていたけど、まさかこんなところで会うとは思いませんでしたから、すごく嬉しかったです。



三段になっている大滝がダイナミックでした。高さは30mぐらい。イワ



ウベツ川が苔むした岩や黒っぽい岩が多く暗い感じがしましたが盤の川は巨岩、巨石が連なり、岩肌が滑らかで滑床が随所に現れ、エメラルドグリーン
の沢の美しさは圧巻です。まさに秘境
!でした。



中央が、がんさん

楽しんでいのもつかの間、10～15mの直登不能の滝がたちはだかっていました。左から高巻きしましたが、滑り落ちそうなところもあり緊張しながら慎重に進みました。

私が一番苦勞したのは、立ちはだかる岩壁を攀じ登ること。岩訓練をしっかりしなくてはと課題が出来ました。膝

小僧が痲だらけです。がんさん一行はかなり厳しい急斜面をがしがしと力強く進んで行き、あっという間に視界から消えました。

840m付近から変化に富んだ美しい沢が次々に現れて沢の楽しさを満喫しました。サシルイ岳が見える。いきなり源頭に突き当たりました。涸れ沢から伏流水がこんこんと流れていました。ここから、盤の川そしてイワウベツ川へと流れていくのだと自然の不思議さに感動しました。

ハイマツを漕ぎ、ようやく稜線に出た時はホッとしました。三峰の科尔に着いたのは5時半。9時間の渡渉と藪こぎでした。

いきなり厳しい沢体験でしたが、小滝、滑滝の連続で、高巻きしたり、ハイマツを漕いだり、熊の糞もあちこちにあり緊張もしましたが楽しかったです。

高山植物盗掘防止パトロール

富良野岳～三峰山～上富良野岳縦走 9月10日(土)

もう花の季節は終わりましたが、節子さんと9月10日、パトロールを兼ねて富良野、上ホロ縦走コースに行ってきました。登山道が整備されすぎて、野趣にかけていたのが残念でした。途中、20人の団体に出会いましたが、半分ぐらいの人がストックを使っており、中には両ストック。しかもキャップなしでした。登山道の土をえぐって植生にかなりの影響がありそうです。「キャップつけてくださいね」と注意したら「知りませんでした」と言う方が多かったです。また、どう見ても健脚でストックなど必要でないような方もいました。私自身も、かつてはストックを使っていましたが、現在はほとんど使わないで登っています。登山ガイドの横須賀さん





も書いていましたが、ストックを使い続けるとバランスが悪くなるそうです。

花の季節が終わっていたせいとか、とても静かな山を楽しめました。十勝連峰の全てが見渡せ、素晴らしかったです。緑の山、富良野岳と十勝の荒々しい山々のスケールの大きさに圧倒されました。ミヤマリンドウ、イワギキョウが涼しげに咲いてました。コケモモ、クロマメノキ、クロウソグの実が盛りです。ダイセツヒゴタイが美しい。タカネナナカマドが紅葉してました。

カミホロの分岐から見上げるとパッチワークのように緑の中に紅葉が広がっていました。

コースタイム 8:12 十勝岳温泉 10:10 肩分岐 10:40 富良野岳頂上
 11:20 肩分岐 11:50~12:30 コルでランチタイム 12:30 出発
 12:55 三峰山 13:40 上富良野岳 15:35 上ホロカメトックには登らず
 上ホロ分岐を通り十勝岳温泉に下山

中央分水嶺踏査

ペンケ山は、ヤブの彼方に 9月23日(金)~25日(日)

L 長谷川雄助 朝日守 鶴岡節子 樋口みな子

パンケ、ペンケは5月のGWに取り組みましたが、雪崩斜面で危険なためペンケの2キロが未踏査でした。

23日、中川町ポンピラ温泉に向かいました。途中、音威子府の北大演習林研究所に立ち寄り、林道の鍵を受け取る予定でしたが、指定された場所に無いのです。「分水嶺踏査は無理かも」と気を落としていたら、一足早く着いていた朝日さんが、一縷の望みをかけ中川町役場に問い合わせたところ、たまたま、休日出勤していた役場職員が北大演習林関係者に問い合わせ、鍵を持っている方と会うことができました。無事に鍵を受け取り、早速、4人でその日のうちにペンケナイ川林道を偵察しました。

GWの時、分水嶺上に立つこの送電線鉄塔を目指して歩いたことが思い出され、懐かしかったです。

24日晴れ。午前6時に宿を出発。碎石場から6kmを車で走り、30分足らずで鉄塔の下に到着。朝食を済ませ、刈り分けた林道を横目に、藪こぎを開始しました。

高さは2メートル半から3メートル。厳しい根曲がり竹がほとんどで、壁のように立ちはだかり、進むのは容易ではありません。4人で先頭を交代し進みましたが、根曲がり竹は後ろにしっかり付いていかないと、バシッ、バ



シッと容赦なく顔や足をたたくのですから大変でした。「平泳ぎの要領で！」と声が飛ぶが、堅くて笹をこじ開けるのに大変な力が必要です。足の長い？Tさんは軽やかに進んで行くのですから、たいしたもんです。

でも1時間でたった200メートルしか進んでいないことがわかり、愕然としました。空以外何も見えない。どこを歩いているのやら。GPSがなければ、到底進むことは出来ないことを思い知らされました。

11時、まだペンケの尾根にすらたどり着けない。4時間歩いて1、1kmしか進んでいないのです。笹藪をかき分けて昼食。

ここから急斜面の藪こぎは、さらに体力を消耗します。リーダーが、これからも続く藪を見据えて「ペンケ山にいつ到着できるかわからない」と判断。昼食後12時に、来た道に向かって引き返すことにしました。

見通しの利かない笹藪は、GPSとコンパスだけが頼りです。「11時50分方向に軌道修正」とか「12時5分に進んで」とのリーダーの声を頼りに前に進みながら、鉄塔目指して下山。2時30分に刈り分け道に出ました。厳しい藪漕ぎを終えてほっとしました。

帰路は林道をペンケ山方向にとり、立派な登山道を見つけ、10数分でペンケ山頂上に立ちました。



パンケ山山頂にて

一等三角点の名に恥じない素晴らしい眺望が広がっていました。右にオホーツク海、左に利尻山と360度のパノラマに感動しました。

私は、首、手、顔にうるしかぶれのお土産までもらいました。



稜線の彼方にペンケ山



「憲法を変えて戦争へ行こう という世の中にしないための18人の発言」

岩波ブックレット 476円+税

9条の会が各地で発足して、憲法を守ろうという草の根の運動に勇気づけられました。この小さなブックレットは、各界で活躍する18人が、自分の言葉で平和憲法の大切さを語っています。

アフガニスタンで医療活動を20年も続けてきた中村哲さんは「戦争をしない国・日本の人間である、日本人であるということに守られて仕事ができ、ということが数限りなくあった」と語っています。軍隊に守られるのは危険という認識が現場ではひしひしと感じるという発言には説得力があります。

在日二世で、政治学者として活躍している、姜尚中さんは「日本に生まれた多くの人は、一生涯ピストルを持たずに亡くなる。それがいかに幸福なことか、ということを理解しなければならない」と語り、吉永小百合さんは「人間は言葉という素晴らしい道具を持っています。その道具で粘り強く話し合い、根っこの部分の相違点を解決していくことが私たちの使命」と語ります。井上ひさしさんは「コスタリカや日本などの軍備を持たないと決めている国の生き方がみんなを励ましている」の発言に憲法9条の果たしてきた世界での役割を再認識しました。

マスコミももっと憲法9条のかけがえのなさを伝えて欲しいと思います。



『新聞記者 夏目漱石』 牧村健一郎著 平凡社 819円

文豪、夏目漱石が新聞記者だったの！という驚きで手にした本です。現役の朝日の記者が書いているのも楽しい。なじみ深い「ころろ」や「三四郎」も新聞小説として発表されたことも初めて知りました。時代の空気を読みながら、当時としては新しかったに違いない現代的な文章の秘密が解けた気がしました。朝日に入社以前から、作家として注目を浴びていた夏目漱石。漱石の朝日新聞への入社がどれほど画期的な事件であったか、当時の資料を駆使して、生き生きと活写しています。

各地での講演活動も活発に行い、ユーモアのセンスも抜群で人気を博したというのも意外でした。気難しいイメージを抱いていましたから・・・

紙面刷新をした池辺三山や多くの魅力ある記者群像も創世記の新聞の活気を伝えています。樋口一葉の恋人と噂された、半井桃水が、海外特派員として朝鮮から記事を送った人であったこと、「春香伝」を翻訳した人でもあったのです。

作家の井上ひさしさんは漱石が朝日新聞で小説を書いた意義を「小さんの口語体を下地に当時の最高の言語学を学んで、平明でしなやか、しかも意識の内側のことや、大局的な事項も搭載できる現代日本語を作り上げた。・・・とくに当時の朝日新聞が舞台だったことが大きい」と指摘しています。

「冒険にでよう」 椎名誠著 岩波書店 740円

私が小学校に上がる前、沙流川やその周辺の野山を駆け回って遊びました。転校が多かったので小学校の思い出より、幼児の頃の体験が強烈でした。椎名少年も千葉の海や野をかけめぐり、図書館でみつけた本「さまよえる湖」「十五少年漂流記」などから、楼蘭や絶海の孤島にあこがれたという。その少年の頃の夢を追いかけて、辺境の地を訪ね歩き、夢だった「さまよえる湖」の地に立った著者の行動力に圧倒されました。少年の日の幕張の海で遊んでいた時の描写に『蟹たちが見渡すかぎりの砂浜で動きまわっているのだった。・・・耳を近づけてやっとかすかに聞こえるようなぶつぶつという音が、そのときは海岸いっぱい広がっていて、大勢の蟹たちによって「海の音」そのものになっているのだった。子蟹の大合唱だ、ぼくは感動してその音の中で立ち止まった。』その情景が見えてくるようです。私も川のせせらぎを聞きながら子守唄のようにして眠ったことを思い出します。



末の叔母がまだ中学生で、私は5歳ぐらいだったでしょうか？夏の暑い日、日高の山奥の学校に手を引かれてつれて行ってもらいました。机の下で授業を受けていたのです。カリンズを食べながら・・・ところパーっとカリンズが教室中に転がったのです。教室中が笑いの渦になり、そのときの赤いカリンズと甘酸っぱい香りが今でも目に浮かびます。

様々な国や日本のあちこちを旅して、海や川の自然破壊を目の当たりにした著者は自然を守ることの大切さを訴えています。スケールが違いますが、実際に歩いて体験することの感動があふれた半生記でした。

映画



『大統領の理髪師』

監督 イム・チョンサン 韓国

1960～70年代の韓国。時の大統領、パク・チョンヒの散髪をしていた男と家族の物語です。ソウル近郊の村で床屋を営んでいた主人公ハンモは、ひよんな縁で、大統領の理髪室長を命ぜられます。無学で善良なハンモは誠実に仕事をこなし、大統領の信頼を得るのですが・・・時代の波に翻弄されながら、庶民の哀

歓をユーモラスに描き出し出色。ところが北朝鮮との緊張関係を背景に政府が行った弾圧事件に巻きこまれ、小学生の息子が無実の罪で逮捕され拷問を受けるのです。やっと釈放された時には、息子は歩けない体にされていました。

父ハンモは、歩けなくなった息子を背負い、名医を探して国中を歩きます。必死に家族を守ろうとするハンモの姿が胸に迫ります。家族がそれぞれに権力から自立を果すのです。正面切って体制批判をするのではなくて悲喜こもごもに人権抑圧の政治への庶民のささやかな抵抗に共感しました。

ペーソスあふれる演技が抜群の主人公、ソン・ガンネが光っていました。

『ロング・エンゲージメント』監督 ジャン＝ピエール・ジュネ フランス

第一次世界大戦を背景にしたラブストーリーですが、戦争とはなんであるか強く訴える映画でもあります。反戦と厭戦、軍隊内部の腐敗と仲間の友情などが重層的に描かれ壮大です。

フランスの小さな村で、幼なじみのマチルド（オドレイ・トトゥ）とマネク（ギヤスパール・ウリエル）は結婚を誓い合いますが、戦争がふたりを引きさく。マネクは召集されますが、戦闘を忌避し、同じ仲間の4人と共に死刑を宣告されるのです。危険な地域に追いやられ生死不明になります。長大な塹壕が掘られ、雨に打たれる兵士たちのうつろな表情が悲しい。CGで合成された、1920年代のパリの町、時代風景が鮮やかでした。

終戦後、マチルドは、探偵や弁護士のを借りて必死にマネクの消息たずね歩きます。過去と現在がいきかいスケールの大きな、空撮、CGを駆使して、ファンタジックな映像に惹きつけられました。マネクの行方はどうなったのか？最後まで目がはなせません。オドレイ・トトゥがひたむきに愛をつらぬく女性を好演しています。

お便り

■日本山岳会の分水嶺踏破もあと少しですね。ご活躍敬服いたします。私は今夏、日本の山を離れてモンゴルの山旅を楽しんでいます。行けども行けども果てしない大草原の155kmにも及ぶドライブは圧巻でした。西にあるオランゴムという所から登山をしましたが天気が悪く、ムストウという4000弱の山に登れたのみです。氷河と花の美しい峰でした。モンゴルにて（K・Kさん）

■7月13～22日、予定通り大姑娘山に登ってきました。花々も丁度見頃で楽しい山旅でした。今度は世界一美しい谷、ランタン谷（ネパール）へ行きましょう！写真はブルーポピーです。赤、黄、水色と花形も色も異なるのが沢山咲いていました。芦別旧道頑張りましたね！（登別市K・Tさん）

■芦別岳の記事をととても懐かしい思いで目を通しました。まだ若かりし頃、30年も前でしょうか？ひとりで登りました。恐いもの知らずもあつたのでしょうかね。今はとてもひとりでは山行は出来ませんし、足腰も弱くなり、他の山も行くことはないでしょう。みな子さんの山の報告を自分も一緒に行つたつもりで拝見しております。地球人、三浦國彦さんの本の紹介の中に自然保護とは「人間性の保護」と「人間に優しい」ことでなければならぬと記してあつたことが目にとまりました。惜しい方が早く亡くなられてしまったのはとても残念なことですね。人となりを想像してみたりしています。

（札幌市 K・Kさん）

■素敵な北海道旅行をサポートしていただきありがとうございます。北斗星での旅行は最高でした。北海道にもはまりそうです。又、「みんなる」にも行きたいです。いい出会いのプレゼント感謝です。（水海道市 M・Kさん）



8月26日（金）アパホテル札幌

購読料をありがとう 05.7.25～9.11

伊藤研吾（山形市） 岩渕雅輝（江別市） 津村靖代（札幌市） 向田晶子（札幌市）
河西瑛一郎（日野市） 高野ケイ（札幌市） 山影静子（夕張市） 東直美（札幌市）
熊坂政晃（札幌市） 西川隆章（福生市） 田島祥光（帯広市） 佐藤礼人（北広島市）

合計25,000円は印刷、送料に使わせていただきます。ありがとうございます。